

# St. Luke's International University Repository

## Activity Report of St. Luke's International University WHO Collaborating Center for Nursing Development in Primary Health Care: Participation in WHO Collaborating Centers Nursing and Midwifery Global Network Meeting and ICN Conference 2017

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-06-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高橋, 恵子, 亀井, 智子, 新福, 洋子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10285/13154">http://hdl.handle.net/10285/13154</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# ICN バルセロナ大会・ WHO CC グローバルネットワーク会議等の参加報告

## — 聖路加国際大学 WHO 看護開発協力センターの活動 —

高橋 恵子<sup>1)</sup> 亀井 智子<sup>1)</sup> 新福 洋子<sup>1)</sup>

### Activity Report of St. Luke's International University WHO Collaborating Center for Nursing Development in Primary Health Care: Participation in WHO Collaborating Centers Nursing and Midwifery Global Network Meeting and ICN Conference 2017

Keiko TAKAHASHI<sup>1)</sup> Tomoko KAMEI<sup>1)</sup> Yoko SHIMPUKU<sup>1)</sup>

#### [Abstract]

In 1990, St. Luke's International University (SLIU) was designated as the first WHO Collaborating Center (WHO CC) for Nursing Development in Primary Health Care in Japan. In June 2016, the PCC Research Department of the SLIU was redesignated as the WHO CC for the seventh term (2016-2020). In May 2017, three faculty members of SLIU WHO CC participated in the ICN Conference and the Global Network of WHO CCs for Nursing and Midwifery Meeting, both of which were held in Barcelona, Spain.

The ICN Conference indicated a turning point by announcing the replacement of the ICN chairperson and introducing the newly elected chief of WHO. The conference provided a precious opportunity which enabled us to broaden our scope on what is going on in nursing and academic arenas worldwide. We made a presentation at the Global Network Meeting about our activities of people-centered care (PCC), where fruitful information exchanges with all other countries' representatives were available. In summary these meetings made clear the future direction of our activities and information dissemination.

**[Key words]** World Health Organization Collaborating Center, nursing and midwifery global network, People-Centered Care

#### [要旨]

聖路加国際大学は、1990年にわが国初のWHOプライマリヘルスケア看護開発協力センターとして委嘱を受けて以来活動を継続し、2016年に聖路加国際大学研究センターPCC実践開発研究部は、第7期(2016-2020年)の再委嘱を受けた。今回、聖路加国際大学WHO看護開発協力センター事務局のメンバー3名が、2017年5月27日～6月1日にスペイン・バルセロナで開催された国際看護師協会(ICN)大会および、WHOCC看護・助産グローバルネットワーク会議等へ参加した。ICN大会では、ICN大会長の交代やWHO新事務局長の紹介など、節目の年となり、世界の様々な地域における看護の取り組みや新たな世界の看護界の動向を把握することができた。グローバルネットワーク会議では、聖路加国際大学WHO看護開発協力センターの研究活動を報告し、各国のWHO看護・助産開発協力センターとの交流と情報交換を行った。本参加を通して、今後の聖路加国際大学WHO看護開発協力センターの情報発信と活動の方向性を確

1) 聖路加国際大学大学院看護学研究科・St. Luke's International University, Graduate School of Nursing Science

認する機会となった。

【キーワード】 世界保健機関看護開発協力センター, 看護・助産グローバルネットワーク, People-Centered Care

## I. はじめに

聖路加国際大学は、1990年5月に日本初の世界保健機関看護開発協力センター（以下、WHO看護開発協力センター）プライマリヘルスケア開発の協力機関として委嘱を受けた<sup>1)</sup>。2012年第6期の委嘱時より、看護学部から研究センターPCC実践開発研究部に事務局を移し、2016年第7期（2016～2020年）に再委嘱を受けた。現在では「プライマリヘルスケアにおけるPeople-Centered Care開発」をテーマとしてWHOとの合意にもとづく活動目標を達成すべく研究を遂行している。

今回、世界のWHO看護開発協力センター間の研究協力の基盤を形成する目的で、聖路加国際大学WHO看護開発協力センター長と委員2名が2017年5月27日～6月1日スペイン・バルセロナで開催された国際看護師協会(ICN)大会と、大会に並行して開催された5月30日のWHO看護・助産開発協力センター・グローバルネットワーク会議等に出席した。本稿では、聖路加国際大学WHO看護開発協力センター（以下、本センター）の活動の概要、およびICN大会等の概要を報告する。

## II. 聖路加国際大学WHOプライマリヘルスケア看護開発協力センターの役割と活動内容

WHOは、人の健康を基本的人権の一つととらえ、その目的の達成のために設立された国際連合の専門機関である<sup>2)</sup>。そこでは、看護・助産、環境、産業保健など様々な分野において活動が展開されている。現在、全世界に46カ所の看護開発協力センターがWHOとの合意による活動テーマで任命を受け、活動している。これらWHO看護開発協力センターは、大学などの研究機関がWHOの保健領域の研究とその促進をサポートする機関として活動しているもので、WHO本部の審査を経て、国際協力ネットワークの部局として委嘱される。また、WHOは、世界を6つの地区（AFRO: Africa Region, AMRO: Region of the America, EMRO: Eastern Mediterranean Region, EURO: European Region, SEARO: South-East Asia Region, WPRO: Western Pacific Region）に分け、各地域に連携を図るよう組織化されている。日本にある本センターは、WPRO（西太平洋地域）に属し、本センター以外のWHO看護開発協力センターには、オーストラリア（University of Technology Sydney, James Cook

University), 香港（The Hong Kong Polytechnic University), 韓国（Yonsei University, The Catholic University of Korea College of Nursing), 中国（Peking Union Medical College - School of Nursing), フィリピン（University of the Philippines Manila）の6カ国、8センターが任命を受けている。WHO WPROでは、プライマリヘルスケアからヘルスプロモーション、そしてPeople-Centered Health Careへと重点目標を移しながら、「すべての人に健康を」の実現を目指した戦略を提言している。現在WHO本部では、Universal Health Coverageを最重要課題に挙げているが、本質的に医療サービスがユニバーサルになるには、People-Centeredの視点で、疾患ではなく人々を中心にデザインされたヘルスケアが必要であると述べている<sup>3)</sup>。WHOはPeople-Centered Careを促進する動画の配信等を行っており、その重要性に再度注目が集まっている<sup>4)</sup>。上記のWHOの動向に沿う形で、本センターでは、聖路加国際大学が取り組んできた保健医療専門職と市民とのパートナーシップに基づくPeople-Centered Care（市民主導の健康生成をめざすケア、以下、PCC）<sup>5)</sup>を基軸に研究開発および実践研究を行っている。また、本センターの活動や研究成果を国内外に発信するとともに、WHO本部およびWPROからの情報収集、国内関連機関との連携、各国のWHO看護開発協力センターとの連携による共同研究等を行っている。本センターの第7期（2016-2020年）の活動目標（TOR: terms of reference）は、TOR1「高齢社会におけるプライマリヘルスケアの価値に基づいたPeople-Centered Careの発展とWPROへの貢献」、TOR2「女性と子供、専門職のより良い連携に基づくヘルスリテラシー向上のための加盟国との知見の共有」、TOR3「WPRO地域の低資源国における看護助産教育の能力向上への支援」の3つである。本センターは、これらの目標の達成に向けて、活動している。

## III. 第26回国際看護師協会（ICN）4年毎大会の概要

ICNは、135カ国が加盟する世界の看護師協会からなる組織である。ICN大会は、ICN4年毎大会とICN学術大会が2年毎に交互に行われる。今回のICN4年毎大会は「ケアの変革を行う最前線の看護師たち」をメインテーマに開催され、約8,000名の看護職等が各国から参集した。大会の開会式では、ICN会長ジュディス・ジャミア

ン氏の挨拶、参加国の紹介パレード、さらに授賞式が行われた。看護師団体に贈られる保健と人権賞は、日本財団会長の笹川陽平氏に授与された。

大会では、3日間にわたり4つの基調講演と9つの主要講演さらに一般演題の口頭発表やポスター発表が行われた。本大会の主なトピックスの1つとして、2016年1月に国連より発効された「持続可能な開発目標 (SDGs)」が取り上げられた<sup>6)</sup>。SDGsは、ミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として2015年に国連が採択したもので、国連加盟国が達成すべき17の目標が掲げられ、貧困や飢餓をなくす、健康や教育を改善する、気候変動に立ち向かうなど、世界の課題が幅広く網羅されている。191の国連加盟国が、2030年までにこの新たな目標を達成することに合意している。SDGsの中で健康のターゲットを集約したのは目標3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」である。米国前オバマ大統領時代の元保健福祉省副長官として勤めたメリー・ウェイクフィールド氏が、看護師は目標3だけでなく、SDGsのほぼすべての目標にかかわる機会がある職業であり、看護師が様々な場面で活躍する機会があることを講演で強調した。また、ヨルダン議会上院議員アル・マアイト氏は、SDGsに至る経緯を紹介し、看護師は積極的にグローバルヘルスの交渉の場に参加すべきであると述べた。また、グローバルヘルス議員連盟審査委員長のナイジェル・クリスプ氏が、新たな目標の実現に向け、2016年10月に同議員連盟が発表した看護が与えるトリプルインパクト（3つの影響：「健康の改善」「経済の強化」「ジェンダーの平等」）レポートを紹介した<sup>7)</sup>。このレポートでは、看護の貢献が、適切に理解されて、看護師が潜在的な能力を最大限発揮できるよう、政治家やその他のリーダーたちが協力することの必要性が報告されている。さらに、ICNからは、看護の影響を世界に広め、そして、SDGsの達成に向けて、看護師が、人々、コミュニティ、そして政府をより良い健康へと主導する声になるための取り組み「NURSE：A VOICE TO LEAD」が

紹介された。これは、地球上の看護師一人一人に発言権（発言する声）があり、その声によって変化を生み出すことができること、そして、その声を聞いてもらうためには、リーダーシップや政治的に能動的であることの重要性が伝えられた。大会最終日には、ICN会長の交代式が行われた。今回選出されたICN新会長アネット・ケネディ氏のスピーチでは、今後4年間の合言葉として“Together”を掲げ、「一緒に取り組んでいこう!」と、参加者全員が手をつなぎ、閉幕した。次回2019年の大会開催地はシンガポール、さらに2021年の4年毎大会の開催地は、アブダビと発表された。

また、大会終了後の6月1日には、バルセロナ市内の施設見学が設定され、筆者らは、世界遺産に登録されている1401年設立のサン・パウ病院 (Hospital de Sant Pau) を見学した。そこでは当時の病院の理念、社会的背景や歴史、病棟建築に工夫されたデザインや空間、そして日光の使い方を垣間見ることができた。

#### IV. WHO 看護・助産協力開発センター・グローバルネットワーク会議の概要

5月30日に、グローバルネットワーク会議が同会場内で開催された。会議には、全世界の46委嘱機関のうち18機関のWHO看護協力開発センターの代表者らが出席した。さらにICN、国際助産師協会 (ICM)、WHO本部、各地区の担当官も参加し、総勢20名の会議となった。日本からは、本センターと兵庫県立大学の2センターが出席した。本会議の議長は、現在、WHO看護・助産協力センター・グローバルネットワーク事務局であるUniversity of Technology Sydney (UTS：オーストラリア) が務めた。会議では、各センターの近況報告が行われ、本センターからは、2016年度の活動をまとめた年次報告書冊子 (図1) と本センターの活動テーマであるPeople-Centered Care ポケットガイド (図2) の完成報告と配布、また早期必須新生児ケア (EENC) のセミナー



写真1 ICN大会に出席した筆者ら3名



写真2 WHO CC グローバルネットワーク会議  
(筆者らは中段右から2～4番目)

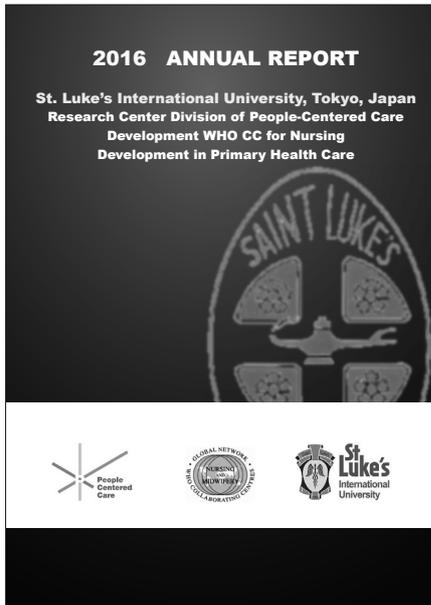


図1 聖路加国際大学 WHO CC アニュアルレポート

を WPRO との連携で開催したこと、および普及のための動画を作成したことの報告を行った。

事務局からの報告では、①2017年5月のWHO総会でも新事務局長に、エチオピア元保健相のテドロス・アダノム氏が選出され、WHOの方針についてWHO CCとして注目していく必要があること、②現在WHO看護・助産開発協力センター・グローバルネットワーク事務局を担っているUniversity of Technology Sydneyが4年の任期を終え、2018年までにWHO看護開発協力センター事務局の選挙が行われること、③WHO本部の看護・助産分野を含めて担当していたムワンサ・ンコワネ氏が、2017年秋で退任すること等の報告が行われた。

### V. ICN テレナーシングネットワーク会議の概要

テレナーシングワーキンググループ代表のクラウディア・バーツ氏から国際遠隔医療学会 (ISfTeH) テレナーシングワーキンググループについて、およびテレヘルスの経験と機会について講演が行われた。ISfTeHとICNはeヘルス、テレヘルスにおける互いの仕事をサポートするための覚書を交わしており、ICNはeヘルス、デジタルヘルスの戦略について現在レビューを行っていることを説明した。講演後のグループワークでは、参加者が、テレナーシングにおける各国の課題を自由に話し合った。その中で、在宅患者等の血圧などのデータが簡単にクラウド上に保存できるようになっているものの、企業間の個人情報のやり取りには課題があるため、看護師がそのデータを使用することが難しい現状が挙げられた。この問題に対し国を挙げてデータのプラットフォームを作り、活用を進めているという他国からの説明があり、政府が



図2 PCC ポケットガイドの一部

データの活用のための標準化にもっと関与すべきこと、テレナーシングを担う人材の学部、修士、臨床レベルでの教育が必要であること、情報倫理やプライバシー、国際医療用語集 (SNOMED-CT) による遠隔医療の用語の標準化などについて意見交換が行われた。わが国の遠隔医療は現在発展途上であり、今のところ標準化の動きは見られていないが、近い将来これらの課題に直面することが予想され、今後のテレナーシング開発の参考になる情報収集の機会となった。

### VI. おわりに

ICN大会および、WHO看護・助産開発協力センター・グローバルネットワーク会議等に参加し、医療・保健分野の最近の動向に関する情報を把握する機会となった。また、ICN大会長の交代やWHO新事務局長の就任など、

節目の年となった。WHO 新事務局長のテドロス氏は大会会場にウェブを通じて登場し、看護職のグローバルヘルスへの貢献の重要性を語った。大会後、2017年10月第68回西太平洋地域会議において、2010年から空席であった Chief Nurse のポストに、クック諸島のエリザベス・イロ氏の起用を発表した。UTS の WHO 看護・助産開発協力センター・グローバルネットワーク事務局ミシェル・ラムジー氏は、これはテドロス氏が WHO の中での看護・助産専門職の重要性と尊重を表している喜びを示している<sup>8)</sup>。こうした流れの中で、人が暮らす地球上のあらゆる場における一人一人の看護職の活躍が求められること、また世界の看護職がつながり、共に声を上げ、政策的に社会に向けて働きかけていくことの重要性を再認識する貴重な機会となった。会議への参加を通して、国連、WHO 本部の方針、WPRO 各地区との連携を継続して、本センターが役割を果たしていくことの必要性を感じた。そして、本センターが日本に存在する意義を改めて痛感した。今後も、日本の超高齢社会における健康課題や諸外国で未だ解決されていない様々な課題の現状を世界で共有し、「すべての人に健康を」という目標に向け、People-Centered の視点によるヘルスシステムへの変革を目指し、2020年に向けた看護・助産の強化を進めていきたい。

なお、今回の活動は、研究成果の発信のため、JSPS 科研費 (JP15H05108) の助成を受けた。

## 引用文献

1) 南裕子. WHO プライマリヘルスケア 看護開発協力センター開所時を振り返って. WHO プライマリーヘルスケア看護開発協力センター20年の軌跡. 東京:

聖路加看護大学; 2010. p.15-23.

- 2) 厚生労働統計協会. 世界保健機関. 国民衛生の動向 (厚生指標増刊). 2014; 61(9): 46-48.
- 3) WHO. People-Centered Health Care: A Policy Framework. Geneva: WHO; 2007. [2017-10-23]. [http://www.wpro.who.int/health\\_services/people\\_at\\_the\\_centre\\_of\\_care/documents/ENG-PCIPolicyFramework.pdf](http://www.wpro.who.int/health_services/people_at_the_centre_of_care/documents/ENG-PCIPolicyFramework.pdf).
- 4) WHO Video: What is people-centred care? [2017-10-23]. <https://www.youtube.com/watch?v=pj-AvTOdk2Q>.
- 5) St. Luke's International University Research center PCC Department. 市民中心のケア:PCC. [2017-10-23]. <http://research.luke.ac.jp/pcc/introduction.html>.
- 6) 国連開発計画 (UNDP) 駐日代表事務所. 持続可能な開発目標 (SDGs). [2017-10-23]. <http://www.jp.undp.org/content/tokyo/ja/home/sdg/post-2015-development-agenda.html>.
- 7) All-Party Parliamentary Group on Global Health. Triple Impact-how developing nursing will improve health, promote gender equality and support economic growth. 2016. [2017-10-23]. [http://www.who.int/hrh/com-heeg/digital-APPG\\_triple-impact.pdf](http://www.who.int/hrh/com-heeg/digital-APPG_triple-impact.pdf).
- 8) UTS WHO REGIONAL UPDATE-BREAKING NEWS-. [2017-10-23]. <https://sendstudio.itd.uts.edu.au/sendstudionx/display.php?M=10713532&C=d9827ff39818d01fc397320dada27ca0&S=30106&L=11074&N=19053>.